



「旅の恥はかき捨て」か？

「旅の恥はかき捨て」…旅先では知人もいないし、長くいるわけでもないから、恥ずかしいことをしてもかまわない…（旺文社国語辞典 第八版）

先月号で話題にした日本人の礼儀正しさを「無」にするような光景が、このす花火大会会場周辺に見られました。実は昨年度もそうだったのですが、学校から糠田運動場への土手には、こんな物までと驚くようなゴミが散乱していました。水入りペットボトル（レジャーシートの重し？）・空き缶・空き瓶・空きペットボトル・飲みかけのペットボトル・飲料の紙パック・段ボール・お菓子の袋・団扇・扇子・レジャーシート・食べ残しのジャガバターや焼きイカ等・露店の食べ物の容器・ストロー・割り箸・串・ビニールの雨傘・簡易チェア・タバコの空き箱や吸い殻・中には大量の焼きそばの麺までもが……。

帰りに拾わなくてはと思いながら会場へ到着。午前7時、本校や鴻巣中・鴻巣北中・赤見台中の生徒が整列し、係の方から指示を受けると早速作業に取りかかります。一つ目の作業内容は、河川敷一面に敷き詰められたブルーシートの観客席の止めピンを外し丸めることです。数十枚もあるシートをグループで手際よく片付けるはずでしたが、生徒を苦しめたのは、雨でぬかるんだ泥でした。長靴を履いていても足を取られます。何とか第一弾終了。泥まみれになりながら次の作業へ。第二弾は、椅子用観客席のそのパイプ椅子を片付けることです。これも、再び泥との闘いとなりました。何百脚というパイプ椅子を収納ケースへ運び入れる作業が延々と続きます。約2時間後の午前9時過ぎに終了、生徒はペットボトルのジュースを1本ずつ貰って晴れやかな顔で帰路へ。ここで改めて、中間テストを控えていながらも、またグラウンド状態の良くない中で協力してくれた生徒の皆さんに感謝申し上げます。きっと、きれいな花火を間近で見せてもらったお礼の気持ちがあるのだと考えます。地域の方数名から「西中は（ボランティアは）強制なんだってね。」と声をかけられましたが、決して強制ではないことを丁寧に説明申し上げます。

さて、西中への帰り道、あの大量のゴミを拾わなくてはと重い気持ちで歩いていると、すでに数名の方がゴミ袋とトングを手に手分けして拾っていました。もちろん私も拾います。ただ、平地ならまだしも、あの土手の斜面での作業は重力に耐えるため結構筋力を要します。約2時間の作業で大方片付けました。やはり人海戦術が有効のようです。西中そばの土手下でゴミを集めていると、民家の玄関口からご婦人が「ありがとうございます。助かります。」と声をかけてくださいました。話を聞くと、いつもなら土手に三重の人垣ができるようですが今回は小雨のためそこまでは観客はいなかったそうです。この方も、毎回花火大会翌日はゴミ拾いに苦労されているのかと思うと気の毒になりました。

日本人が度々、ゲーム後スタジアムでの清掃活動や選手のロッカールームの整理整頓で注目されています。特に、大震災に見舞われても、配給物資を何時間も順番を守って受け取ったり、商店やコンビニの商品を勝手に持ち出さなかったり等海外から高く称賛されていますが、一方でマナー違反も少なからず居るのが現状です。ポイ捨てする人の気持ちは正直わかりません。しかしながら、古くから「旅の恥はかき捨て」ということわざがあるということは、ある意味日本人の本質を表しているのでしょうか。話は続きがあり、駐車場となった校庭は轍(わだち)でぐじゃぐじゃでおまけに家庭ゴミや吸い殻まで捨ててある始末…。

鴻巣西中生は清掃活動に熱心に取り組んだりアルミ缶・ペットボトルキャップ回収に協力してくれたりしています。今後も、「来た時よりも美しく」の精神を養いたいと思います。

（橋本 浩）